

エコアクション21

環境経営レポート

令和4年(2022年)度

運用期間：令和4年(2022年)9月～令和5年(2023年)8月



有限会社クリーン山口

令和5年12月15日 発行

取組の対象組織・活動

◆組織の概要

(1) 名称及び代表者名

有限会社クリーン山口

代表取締役 山中 岳寿

(2) 所在地

本社 山口県周南市新地2丁目8番13号

(3) 環境管理責任者及び担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者 代表取締役 山中 岳寿 TEL: 0834-31-7937

E-mail: clean.y01@r4.dion.ne.jp

環境管理担当者 事務局 山中 恵子 TEL、E-mail: 同上

(4) 事業内容

- 1.各種プラント清掃業
- 2.産業廃棄物処理業（汚泥天日乾燥）
- 3.産業廃棄物収集運搬業
- 4.環境資材の斡旋及販売

(5) 設立年月日

昭和 51年 11月 29日

(6) 資本金

1 0 0 0 万円

(5) 事業規模

活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	百万円	130	133	141
従業員	人	6	7	8
述べ床面積	m ²	77.6	77.6	77.6
産業廃棄物受託処分量	m ³	3,573	3,573	3,472

(6) 事業年度 9月～8月

(7) エコアクション21取得

2014年10月

認証・登録番号 : 0008841

◆認証・登録の対象範囲（全組織・全活動）

(1) 対象事業者名 有限会社クリーン山口

(2) 対象事業所 本社

(3) 対象活動 特別管理産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物処分（中間処理）業
清掃業、環境資材の斡旋及び販売

環 境 経 営 方 針

基本理念

近年環境問題と共に産業廃棄物処理に対する関心は、年々日本はもとより世界的に高くなっています。産業廃棄物も多様化しており法律も厳しく複雑なことによりその処分については、排出業者は対策に苦慮しています。当社は、排出業者への廃棄物の適切な分別、処理までのアドバイスを実施すると共に中間処理過程においてリサイクルを推進することにより環境保全に努めるとともに、地域社会への貢献を意図した事業活動を行います。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し、環境負荷の低減を継続的に推進します。そのために以下の事項を重点的に取り組みます。これらを環境目標及び活動計画に定め、定期的な見直しを実施します。

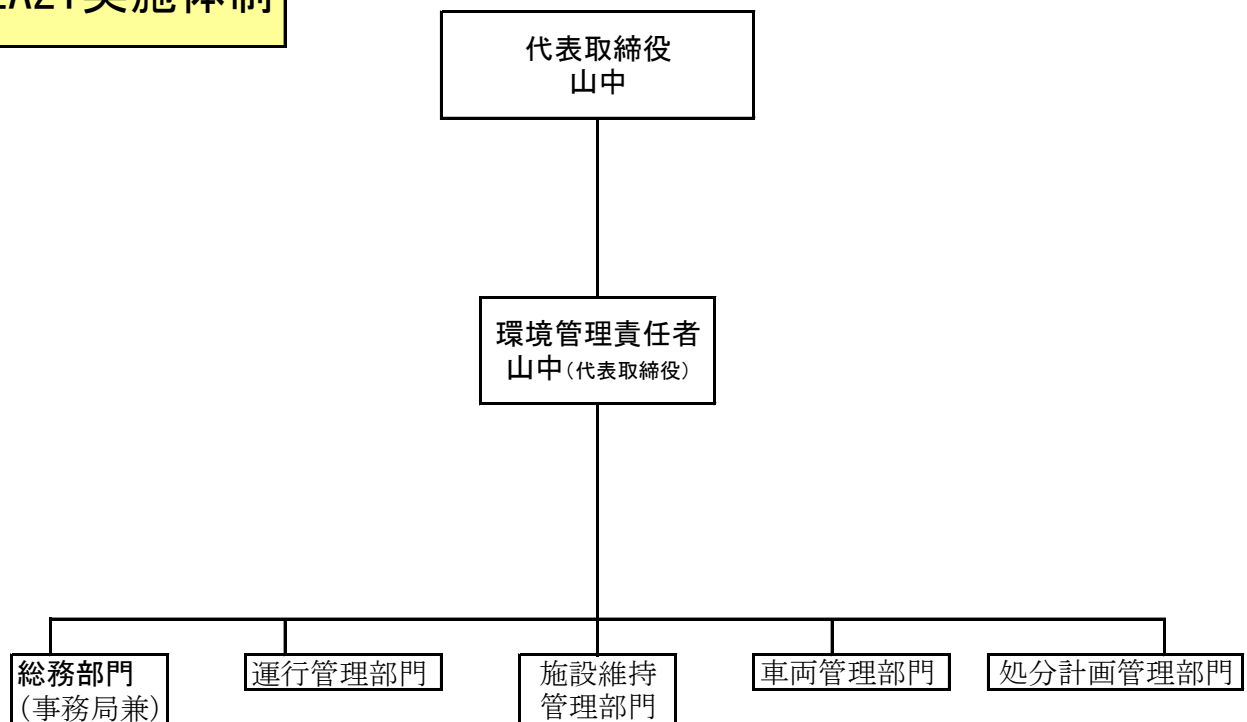
1. 二酸化炭素排出削減
使用エネルギー（電気、ガソリン、軽油）の削減に努めます。
節電に努めます。
エコドライブを意識づけ実施します。
産業廃棄物の収集運搬・中間処理を適切かつ安全に行い、また、同作業上で与える環境負荷の低減かつ環境汚染を予防します。
2. 廃棄物の削減
分別を徹底してリサイクルを推進します。
環境保全につながる物品の使用に努め、必要時排出業者へ効率的使用の説明をします。
汚泥処理のリサイクルを推進します。
3. 水使用量の削減
節水に努め、水使用量の削減に取り組みます。
4. 紙の使用量の削減に取り組みます。
5. 事業の実施に当たっては環境に配慮したサービスに取り組みます。
6. 事業活動に関連する環境関連法規等を遵守します。
7. 地域や自治体等関連団体などと協働し清掃活動や環境美化につとめます。
8. この環境方針は、社員全員に周知するとともに、社外へ公表します。

制 定：2011年10月1日

最終改訂：2019年10月25日

有限会社クリーン山口
代表取締役 山中岳寿

EA21実施体制



役割分担表

氏名	所属(役職)	役割・責任・権限・使命
山中	代表者 (代表取締役)	全体の統括、環境方針の設定、全体の評価と見直し
山中	環境管理責任者 (代表取締役)	全体の把握／環境経営システムを構築し、運用し、その状況を社員全員に報告し、意識づける。
山中恵	総務部門 (事務局兼)	環境データの集計、記録類の作成 廃棄物データ管理、毎月の全体の作業管理・報告 記録の確認
白崎	処分計画管理部門	月間処分計画及び管理
山中桂 藤井	施設維持管理部門	施設清掃計画と施設維持管理、記録の確認
山中桂 恵谷	運行管理部門	年間、月間、週間及び毎日の運行、収集運搬計画及び管理
磯村 山中将	車両管理部門	車両整備の最終確認及び管理、年間訓練計画

事業の範囲

(1) 産業廃棄物収集運搬業(積替保管施設なし)



優良認定取得

許可自治体	許可番号	取扱廃棄物の種類	許可年月日	有効年月日
山口県	03503013193	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、 廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、 動植物性残渣、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、 鋳さい、がれき類	平成31年1月25日	令和8年1月24日
島根県	03200013193	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、 廃プラスチック、金属くず、がれき類	令和2年5月19日	令和9年4月29日
福岡県	04000013193	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、 廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、 動植物性残渣、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、 鋳さい、がれき類	平成30年10月25日	令和7年10月24日
広島県	03400013193	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、 廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、 動植物性残渣、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、 鋳さい、がれき類	平成30年11月6日	令和7年11月5日
大分県	04402013193	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ	令和3年8月11日	令和8年8月10日
大分県	04402013193	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ	令和3年8月11日	令和8年8月10日
大分県	04402013193	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ	令和3年8月11日	令和8年8月10日

(2) 産業廃棄物特別管理収集運搬業(積替保管施設なし)

許可自治体	許可番号	産業廃棄物の種類	許可年月日	有効年月日
山口県	03553013193	廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥、 感染性産業廃棄物、廃石綿等	令和4年4月11日	令和11年4月5日
福岡県	04050013193	廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥、 廃石綿等	令和4年4月12日	令和11年4月11日
広島県	03450013193	廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥、 廃石綿等	申請中	
島根県	03450013193	廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥、 廃石綿等	令和4年6月15日	令和9年6月14日

(3) 産業廃棄物処分業

許可自治体	許可番号	事業の区分	取扱産業廃棄物の種類	許可年月日	有効年月日
山口県	03523013193	中間処理 (天日乾燥)	汚泥 (特別管理産業 廃棄物である ものを除く。)	平成31年1月25日	令和8年1月24日

事業の用に供するすべての施設

天日乾燥施設

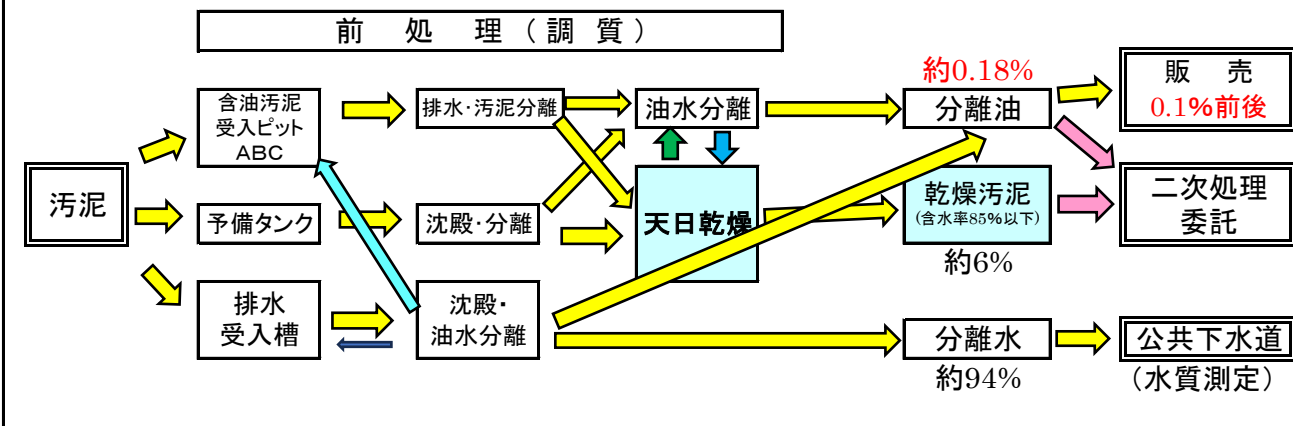
設置場所：山口県周南市新地二丁目8番13号

設置年月日：昭和53年1月25日

処理能力：0.6t/日

積替保管施設 なし

【処理工程】



(5) 受託した産業廃棄物の処理量

＜収集運搬(廃棄物等種類とその処理量)＞

	単位	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
汚 泥	m ³	3,374	3,569	4,076
廃 油	t	48.4	55.9	132.1
廃プラスチック	t	1.8	4.4	1.6
金 属 く ず	t	0.7	2.0	0.9
廃 酸	t		15.6	0.1
廃 アル カ リ	t		29.6	0.0
混 合 物	Kg	50.0	0.0	0.0
木 く ず	t	1.4	2.1	2.1
ガラス・陶磁器くず	Kg	0.1	0.1	0.2
が れ き	Kg	0.2	0.0	0.0
コンクリートガラ	t			
動植物性残渣	t			

＜収集運搬(廃棄物等種類とその処理量): 特別管理産業廃棄物＞

	単位	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
有害廃アルカリ	m ³	7.1	9.8	0.0

2022年度環境経営目標及び中期環境経営目標

環境目標		単位	2020年度 (基準年度)	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
1	二酸化炭素総排出量	t- CO ₂	125	—	—	—	—
		kg- CO ₂ /百万円	958	957以下 0.1%減	956以下 0.1%減	954以下 0.2%減	952以下 0.2%減
	1-1 電力使用量	kWh /百万円	91	91以下 0.1%減	91以下 0.1%減	91以下 0.2%減	90以下 0.2%減
	1-2 ガソリン使用量	L /百万円	49	49以下 0.1%減	49以下 0.1%減	49以下 0.2%減	49以下 0.2%減
	1-3 軽油使用量	L /百万円	333	333以下 0.1%減	332以下 0.1%減	332以下 0.2%減	331以下 0.2%減
2	環境保全提案	—	ほぼすべての顧客に緊急対応措置等を提案した	緊急対応措置等の積極提案及び確認	緊急対応措置等の積極提案及び確認	緊急対応措置等の積極提案及び確認	緊急対応措置等の積極提案及び確認
3	受託廃棄物のリサイクル率	%	99.98	99.98以上	99.98以上	99.98以上	99.98以上
4	水使用水量	m ³ /百万円	2.9	2.9以下 0.1%減	2.9以下 0.1%減	2.9以下 0.1%減	2.9以下 0.2%減
5	会社周辺の清掃	実施回数	1回/週	1回/週以上	1回/週以上	1回/週以上	1回/週以上

備考：1 電力は、中国電力の平成30年度・調整後二酸化炭素排出係数 0.636kg-CO₂/kWhを用いた。

備考：2 PRTR対象化学物質を使用していないので、化学物質使用量の削減の目標は掲げない。

2022年度 環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量の削減 2020年度実績から0.1%減

取組目標		活動項目	
1	電気使用量の削減	1	エアコン設定温度を決め、実行する
		2	休憩時間の消灯
		3	残業時の不要な照明の消灯
		4	長時間席を離れる時、パソコンの電源OFF
		5	インバーター照明機器の導入
		6	機器の清掃(エアコン等)
		7	高効率機器の導入
2	ガソリン使用量の削減	1	省エネドライブの励行
		2	冷暖房の適正使用
		3	アイドリングストップの励行
3	軽油使用量の削減	1	省エネドライブの励行
		2	配車計画の合理化
		3	アイドリングストップ手順を決め、実行する
		4	車輛始発前点検及び不具合の早期発見整備
		5	作業仲間や作業事務方間のスムーズな連携
4	LPGガス使用量の維持	1	お湯の沸かしっぱなしはしない

2. 環境保全提案

取組目標		活動項目	
1	環境保全の認知定着	1	環境保全不全の代償と緊急時の対応説明
		2	吸着マット、中和剤の保有説明

3. 受託廃棄物のリサイクル率の向上 99.98%以上

取組目標		活動項目	
1	リサイクルの推進	1	リサイクル可能な処理業者を選別

4. 水使用量の削減 2020から0.1%減

取組目標		活動項目	
1	水使用量の削減	1	洗車時等の出しっぱなし防止
2	事務所における節水活動	2	洗濯等の水の止め忘れ防止

5. 会社周辺の清掃

取組目標		活動項目	
1	会社周辺の清掃(1回/週)	1	社内清掃時点検兼清掃の意識づけ

2022年度 環境経営目標とその実績及び評価

環境目標		実績		2022年度		達成 状況	
		単位	2020年度	目標	実績 目標比増減		
1	二酸化炭素総排出量		t- CO2	124.78696	—	158.284526	—
			t- CO ₂ /百万円	958	957以下	1,117 16.7% 増	×
	1-1	電力使用量	kWh /百万円	91	91	89 2.1% 減	○
	1-2	ガソリン使用量	L /百万円	49	49.以下	53 8.3% 増	×
	1-3	軽油使用量	L /百万円	333	333以下	398 19.6% 増	×
2	環境保全提案	—	ほぼすべての顧客に緊急対応措置等を提案した	緊急対応措置等の積極提案及び確認	ほぼすべての顧客に緊急対応措置等を提案した	○	
3	受託廃棄物のリサイクル率	%	99.98	99.98以上	99.98 増減なし	○	
4	総排水量（使用水量）	m ³ /百万円	2.9	2.9以下	2.2 21.8% 減	○	
5	会社周辺の清掃	実施 回数	1回/週	1回/1週以上	1回/1W	○	

備考：1 電力は、中国電力の平成30年度・調整後二酸化炭素排出係数 0.636kg-CO₂/kWhを用いた。

備考：2 PRTR対象化学物質を使用していないので、化学物質使用量の削減の目標は掲げない。

取組の結果及び評価、及び次年度の取組内容

※ 今回からエネルギー使用量等については、「原単位評価」に移行した。

- 1 二酸化炭素排出量の削減：目標 16.7%増・未達成
未達成理由は、以下のエネルギー項目記載の通り。

① 電力使用量削減：目標 2.1%・達成

夏季は異常な暑さの為冷房の使用量増加はパフォーマンス低下を防ぐ等必要経費と考
ただ、できる限りの節電に務めたので、原単位評価では目標を達成できた。
次年度も、削減行動を徹底する。

② 燃料：

ガソリン：目標 8.3%増・未達成

環境経営計画に基づき、エネルギー削減に取り組んだが、受注量の増加に伴い、
営業活動も活発化せざるを得なかったことが原因。
可能な限りPCでの顧客対応を進める等営業活動の効率化に取り組む。

軽油：目標 19.6 %増・未達成

エコドライブの取組は、実施している。

環境経営計画に基づき、エネルギー削減に取り組んだが、タンククリーニング及び
産業廃棄物収集運搬受注が大幅に伸び、その稼働率を高めたことが原因。

燃料代、資材費が高騰し、利益率を圧迫していることも、原単位評価目標未達成の
一因となっている。

今後も受注の伸びが見込まれることから、大型車両の増車を計画する。

さらなる燃料の増加が予想されて目標値の変更を考える必要があるかもしれない。

車両の整備を徹底し、故障の削減、燃費向上に取り組み、軽油を削減する。

毎日の車両整備は徹底していく。

- 2 環境保全の必要性と緊急時の対策案の提案

年1回程度の緊急時物品の確認

次年度も同様の取組を進める。

- 3 受託廃棄物のリサイクル率：目標 99.98%に対し、実績99.98% 達成

リサイクル率は、高水準に維持できた。

- 4 水資源投入量の削減：目標 21.8%%減・達成

節水意識を徹底できた。

次年度も節水を心がけていく。

- 5 会社周辺の清掃：達成

会社周辺の清掃をおこなっています。

次年度も継続します。

(環境関連法規への違反、訴訟の有無)

《主な環境関連法規等》

廃棄物処理法、消防法、フロン排出抑制法

過去、当社にかかわる環境関連法についての違反及び、他社からの訴訟等はありません
また、地域住民及び関連する機関等からの苦情もありません。

代表者による全体の取組状況の評価および見直し・指示の記録

評価者名(代表者名)		代表取締役 山中 岳寿
評価及び見直しに参加した人		山中岳寿:代表取締役兼環境管理責任者 白崎保・山中桂次・磯村保・恵谷健吾・山中将寿・藤井慶雅・山中恵子
提出した情報(資料等)		①環境経営方針 ②令和4年9月～令和5年8月 環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果 ③是正処置及び予防処置結果 ④環境関連法規制等の遵守状況のチェック結果 ⑤外部からの苦情等の受付結果 ⑥直近の審査報告書 ⑦その他(例:環境関連法規等の改正動向の情報、etc)
評価	環境経営システムが有効に機能しているか	環境負荷軽減を考える機会をもつことにより、経費節減等のソフト面を意識はしているが、しごとの性質上安全第1で経費がかかってもやむなしとなる場合も多々ある。都度都度の意識確認は必要と考える。 又、昨年同様社会情勢の流れをとらえた会社経営の必要性はもとより世代交代をスムーズに行えるよう少しずつすすめていくことを考えてていかなければならないと感じている。仕事面では、人員が増えたことにより各人に余裕ができ安全へとつながった仕事ができていると考える。経営の方向性も目標に向かっていていると考えるが、何が起こるかわからないので、早急に対処できるよう情報収集と連絡、コミュニケーションは、おなざりにならないようにしないといけなと考える。今後は、古い車両の入れ替えも念頭にいれつつ、来季増車する大型車の稼働をどれだけ増やせるかが一つの課題となる。いづれにしてもなんどきも安全第一を社員一同共通認識していくことは、変わらない。
	環境への取組は適切に実施されているか	エコドライブ、安全運転及び安全作業の取組は確実に行われている。
見直し (変更の必要性・指示)	環境経営方針変更の必要性	特に大きな変更はない。
	環境経営目標変更の必要性	原単位での評価に変更
	環境経営計画変更の必要性	活動項目がわかりやすく変更の必要なし。
	環境経営システム等変更の必要性	変更の必要なし。